

水稻の葉色診断で

夏の高温に備えましょう！

令和元年7月5日

埼玉県農林部

水稻の生育状況

水稻の生育は、現在、各作型とも概ね平年並です。
早期・早植栽培では穂肥施用時期にあたります。

今後の見通し

7月～9月の気温予想は平年並ですが、高温になった場合に備えましょう。出穂後20日間の平均気温が27℃を上回ると、高温により白未熟粒の発生する危険性が高まります。

対策

1 葉色確認と穂肥

白未熟粒の発生を軽減するために最も重要な対策は、葉色診断に基づく適期・適量の穂肥の施用です。基肥一発施肥体系でも、葉色の低下が著しい場合には追肥を行います。

「彩のかがやき」の穂肥

早植では出穂前22～23日頃、普通栽培では出穂前25日頃に、葉色板で「4」以下の場合、窒素成分で3kg/10aを限度に追肥しましょう。追肥時に葉色が「3」以下の場合、出穂前15日頃に再度葉色を確認し「4」以下の場合には2kg/10aを限度に追加施用しましょう。

2 水管理

穂肥施用時期から出穂7日後までは湛水状態を保ち、それ以降は水を入れっぱなしにせず、田に入水したら水口を閉め、自然に落水させる間断かん水を行い根の活力維持に努めましょう。

かけ流しかん水は、用水不足を招き、結果的に高温障害を助長する恐れがあるので絶対にやめましょう。

農作業中の熱中症にご注意ください。